

# 試験報告書

依頼者 株式会社 富士計器

株式会社 シリウス

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 除菌水の素

表 題 殺菌効果試験

2020 年 06 月 15 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

## 殺菌効果試験

### 1 依頼者

株式会社 富士計器

株式会社 シリウス

### 2 検体

除菌水の素

### 3 試験概要

検体を用いて調製した試料液に試験菌液を接種後(以下「試験液」という。), 所定時間後に試験液中の生菌数を測定した。また, あらかじめ予備試験(中和条件の確認)を行い, 検体の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

### 4 試験結果

結果を表-1, 試験条件を表-2に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で希釈する中和条件により, 検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数 (/mL)			
		開始時	15秒後	30秒後	60秒後
大腸菌 (O157:H7)	検 体*	—	<10	<10	<10
	対 照	$7.2 \times 10^5$	—	—	$6.1 \times 10^5$
緑膿菌	検 体*	—	<10	<10	<10
	対 照	$6.7 \times 10^5$	—	—	$7.0 \times 10^5$
サルモネラ	検 体*	—	<10	<10	<10
	対 照	$7.3 \times 10^5$	—	—	$7.2 \times 10^5$
MRSA	検 体*	—	<10	<10	<10
	対 照	$1.8 \times 10^5$	—	—	$1.4 \times 10^5$
白癬菌	検 体*	—	<10	<10	<10
	対 照	$8.2 \times 10^5$	—	—	$7.9 \times 10^5$

<10 : 検出せず

保存温度 : 室温

対照 : 精製水 (MRSAは生理食塩水)

\* 精製水500 mLに対して検体0.5 gの割合で添加, 混合したもの

表-2 試験条件

試験菌液	試験菌	① <i>Escherichia coli</i> ATCC 43895 (大腸菌, 血清型O157:H7, ペロ毒素 I 及び II 型産生株) ② <i>Pseudomonas aeruginosa</i> NBRC 13275(緑膿菌) ③ <i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> NBRC 3313 (サルモネラ) ④ <i>Staphylococcus aureus</i> IID 1677 (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌: MRSA) ⑤ <i>Trichophyton rubrum</i> TIMM 2659(白癬菌)
		試験菌①～③ 前培養: 普通寒天培地[栄研化学株式会社], 35 °C±1 °C, 18～24時間 菌液調製溶液: 精製水 菌数: 10 <sup>7</sup> ～10 <sup>8</sup> /mL
		試験菌④ 前培養: 普通寒天培地, 35 °C±1 °C, 18～24時間 菌液調製溶液: 生理食塩水 菌数: 10 <sup>7</sup> ～10 <sup>8</sup> /mL
		試験菌⑤ 前培養: Potato Dextrose Agar (Difco), 25 °C±1 °C, 10～14日間 菌液調製溶液: 0.005 %スルホコハク酸ジオクチルナトリウム溶液 菌数: 10 <sup>7</sup> ～10 <sup>8</sup> /mL
試料液	精製水500 mLに対して検体0.5 gの割合で添加, 混合したもの	
試験液	試料液10 mLに試験菌液0.1 mLを接種	
保存条件	15秒, 30秒, 60秒(室温)	
中和条件	SCDLP培地[日本製薬株式会社]で10倍希釈	
対照	試験菌①～③及び⑤: 精製水 試験菌④: 生理食塩水	
生菌数測定	試験菌①～④	35 °C±1 °C, SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社], 混釈平板培養法 2日間
	試験菌⑤	25 °C±1 °C, GPLP寒天培地[日本製薬株式会社], 混釈平板培養法 7日間

以 上